

しおかぜ

～第22号～

2016.12

基本理念

病める人とともに、和と向上心をもって、
総合的かつ継続的な地域医療の実現をめざします。

基本方針

1. 垂水市の中核病院として病診連携を充実し、地域に必要な救急医療から在宅医療まで24時間体制で提供します。
2. 垂水市の地域包括ケアの拠点として、保健・医療・介護・福祉を連携し、住民が安心して住み続けられるまちづくりに貢献します。
3. 鹿児島へのき地医療を支援するとともに、感染症および災害発生時には地域の拠点病院としての役割を果たします。
4. 患者の人権とプライバシーを尊重し、多職種が連携した患者中心のチーム医療に努めます。
5. 職員ならびに地域の医療従事者の教育に努め、医療の質を高めるとともに、鹿児島の医療人育成に貢献します。
6. 病院を健全経営し、地域住民に安定した医療を継続的に提供できるように努力します。

【目次】～CONTENTS～

- ◇救急医療市民講座について・・・P1～P2
- ◇療養病床のご案内・・・P3
- ◇2016年総合防災訓練を実施しました
・・・P3～P4
- ◇新任医師紹介・・・P4
- ◇おはら祭り夜まつりに参加しました・・・P5
- ◇第12回TQC発表大会・・・P5～P6
- ◇医療安全推進週間について・・・P6
- ◇イベント～病院の話題～・・・P7

救急医療市民講座について

毎年9月9日を救急の日と定め、この日を含む1週間を救急医療週間として全国各地でさまざまな行事が行われています。垂水市でも、9月10日（土）に垂水市市民館において「救急医療市民講座」が開催されました。講座の前半では、当院の桑波田 聡医師（循環器内科 部長）による「自分で守る、地域で守る～命に関わる心臓の病気」という演題で医療講演が行われました。講演終了後は、垂水市消防本部職員による寸劇や心肺蘇生法の実地指導も行われました。心肺蘇生法の目的は、傷病者が心肺停止、もしくはこれに近い状態になったときに、呼吸及び循環を補助することです。心臓が止まっている間、素早く心肺蘇生法を実施することで、一番大事な脳や心臓に血液を送り続け、心拍再開後、脳に後遺症を残さないようにします。救急車が到着するまでの間、その場に居合わせた人が心臓や呼吸が停止してしまった人に何もしないと、適切な心肺蘇生法を実施したのとでは救命率が格段に違います。



医療講座の様子



講師の桑波田医師



- 左上／垂水市消防本部職員による寸劇
- 上／心肺蘇生法の実地指導
- 左／垂水中央病院の看護師による血圧測定

救命処置の手順

(心肺蘇生法とAED使用について)

1 肩をたたいて意識の確認



倒れている人がいたら、意識を確認します。
すぐに119番通報とAEDを手配します。

3 呼吸の確認



あごを上げ、口元に頬を寄せ、
呼吸の確認をします(10秒以内)。

4 呼吸がなければ、2回の人工呼吸



空気が逃げないように、鼻をつまみ、
ゆっくり1秒程度吹き込みます。

6 AEDで電気ショック



AEDが到着したら、すぐにAEDの音声ガイドに従って
パッドを胸に張り、電気ショックを行います。
救命処置は、救急隊が到着するまで続けましょう。

5 30回の胸骨圧迫



胸が4~5cm沈む程度の強さで、
1分間に約100回のテンポで押します。

※垂水中央病院では、年に1回全職員を対象に心肺蘇生法の訓練を行っています。

療養病床のご案内

ご承知のとおり、当院では2015年3月に療養病床を設置いたしました。おかげをもちまして、順調な運営ができております。

当院が現在目指す療養病床は、できるだけ医療需要の高い比較的重症の患者さんを中心としたものです。これは国が進める地域医療構想に基づくものであり軽症の患者さんは、在宅医療への移行を進めています。当院は急性期から慢性期、そして在宅医療までを幅広くカバーし、地域に根差した医療を目指しております。その中で療養病床は、急性期医療からの受入れと在宅医療への橋渡しの機能を有しており、これからの地域医療の核となることから、療養病床をできるだけ早い段階で当院が目指す形にしたいと考えております。

まだ若干の空き病床がございます。ご家族や地域に対象となる患者さんがいらっしゃいましたら当院の療養病床を一度ご検討ください。専門の担当者が詳しく対応させていただきます。療養病床についての問い合わせは垂水中央病院総合相談連携室（内線159）となっています。どうぞ遠慮なくご相談ください。

重症の患者さんの例

- 気管切開が行われている方
 - 24時間酸素吸入を実施
 - 頻回に喀痰吸引を実施（1日8回以上）
 - 床ずれに対する治療が行われている方（2箇所以上）
 - 人工透析
 - 筋ジストロフィーなど指定難病の受給者証をお持ちで現在治療中の方
- ※上記以外にも、重症に該当する例は多数ありますので、是非一度ご相談ください。

お気軽にご相談
ください。



2016年度総合防災訓練を実施しました

大規模災害の発生に対し職員が各種の災害対応について適切に行えるか、当院の防災体制の実効性についての検証を行い、災害対応マニュアルについての不備・問題点の洗い出し及び改善を目的に、2016年11月19日（土）に総合防災訓練を実施しました。昨年度に引き続き、今回で2回目の実施となります。

総合防災訓練は、11月初旬より桜島で非常に活発な噴火が続いており、昭和火口で爆発的噴火が度々発生。5日から噴火警報（噴火警戒レベル4、避難準備）が継続していたが、19日13時30分に突如大噴火が発生、同時に火山性地震も観測。マグニチュードは7.4。垂水市内でも震度6弱を記録し、耐震性の低い建物は倒壊し、垂水市消防本部より負傷者の受け入れ要請が入るとの想定で訓練がスタート。災害対策本部を院内に設置し、負傷者の受け入れ体制づくりを行い、スムーズに負傷者を受け入れることが出来るか訓練で検証しました。

4月には、隣県の熊本県で大規模な地震により、甚大な被害が発生しております。今後も当院では、大規模災害発生時の地域の拠点病院として、災害への対応を真剣に考え着実に進めていきたいと考えています。

総合防災訓練の様子



新任医師紹介



眼科

さこの たかと
迫野 能士

10月から眼科でお世話になっている迫野能士といいます。読み方が難しいですが、「たかと」と読みます。眼科医としてまだまだ見習いで、各部署の方々にもご迷惑をおかけすることも多いとは思いますが、一生懸命にがんばっていきたくております。病院の皆さんとも仲良くなりたいので、声などもかけてみて下さい。それでは1年と短い間ですが、宜しくお願い致します。



おはら祭り夜まつりに参加しました

2016年11月2日に行われた、第65回おはら祭り夜まつりに、垂水中央病院と介護老人保健施設コスモス苑の職員約70名が参加しました。今回の夜まつりには82踊り連8000人が参加。第12代かごしま親善大使の任命式やおごじょ太鼓の演奏後、総踊りがスタート。垂水中央病院と介護老人保健施設コスモス苑の踊り連も冷え込む夜空の下で元気いっぱい踊りました。



第12回TQC発表大会

当院では、2016年10月15日（土）に第12回TQC発表大会を開催しました。TQCとは「Total Quality Control」の略語であり、職場で自発的に集まったスタッフがグループを作り、サービスの質の管理、改善、安全対策等に取り組むことを指します。

日常の業務の中で、例えば「スムーズに仕事が進まない」「もっと工夫すれば患者さんにわかりやすくなるのに」というような事が多々あります。このような問題点に対して、複数のスタッフが1つのグループ（サークル）を結成し、現状の調査および、目標が達成できるよう改善に取り組めます。今回は、11サークルによる発表が行われました。今後も、この活動を通して業務改善のための取り組みを積極的に行っていきたいと思います。

【TQC発表大会の結果】

	発表テーマ	部署	サークル名
金賞	汚染リネンの仕分け時間を短縮したい	3階病棟	秋桜（kosumosu）
銀賞	患者にあったおむつ選択やあて方の工夫でリネン汚染を減らす	2階病棟	ライン
銅賞	肩関節側面（スカプラY）撮影時の補助具作成について	放射線室	ソムリエ
銅賞	グローブ使用方法の見直し	臨床検査室	ももいろクローバーZ

医療安全推進週間について

「医療安全推進週間」は、患者の安全を守るため、すべての医療関係者が協働して医療安全に取り組むことを目的として、厚生労働省が位置付けた期間です。当院では毎年、医療安全推進週間（2016年度は11月20日～11月26日）に職員より「医療安全推進標語」の募集・最優秀賞等の決定を行っています。今年度は、121作品の応募作品の中から1位（最優秀賞）5作品、2位（優秀賞）5作品が選ばれました。

順位	標語	部署
1位（最優秀賞）	声掛けと チームワークで 防ぐ事故	リハビリテーション室
1位（最優秀賞）	終わりなき リスク管理の バトンパス	リハビリテーション室
1位（最優秀賞）	片付けも 安全確保の 第一歩	事務部
1位（最優秀賞）	何度でも 確認しよう「君の名は。」	事務部
1位（最優秀賞）	したつもり つもり積もると 事故になる	臨床検査室
2位（優秀賞）	「ゼロレベル」言える勇気と聞く心が 事故防ぐ	放射線室
2位（優秀賞）	思い込み その一瞬が 事故のもと	栄養管理室
2位（優秀賞）	「何か変」感じるアンテナ 張りましょう	事務部
2位（優秀賞）	忙しい あせる心が 事故招く	外来
2位（優秀賞）	チームの和 繋いで防ぐ 医療事故	外来

イベント ～病院の話題～

医療講演会



当院の毛利翔悟医師（内科）が、2016年9月8日に垂水市市民館で行われた、垂水市中央地区高齢者大学にて医療講演会を行いました。

講演では、高齢者の身体機能や認知機能が低下して虚弱となった状態を「フレイル」と呼び、要介護予備軍として注目されていることを紹介。フレイルの状態を早期発見し、食事や運動など早期に適切な対応で再び元気を取り戻し、健康寿命を取り戻すことが可能になると説明しました。

看護研究発表会



11月17日に、2016年度第2回看護研究発表会を開催しました。この看護研究発表会は毎年2回開催しており、第1回目は6月16日に開催しています。

今回は、「看護ケアの質を評価する」（3階病棟）、「当院の看護師が感じている倫理的問題と対処方法の考察」（4階病棟）、「術中体位管理を目指して～補装具の作成とマニュアルの改訂～」（中材・手術室）の計3演題の発表がありました。

予約受付時間のご案内

月～金曜日	土曜日
14:00～17:00	8:30～12:30

※当院では全診療科予約制です。

※当日の診療に関するご相談や当日の予約時間変更に関するご連絡は、8:30から受付けています。

垂水市立医療センター 垂水中央病院

〒891-2124

鹿児島県垂水市錦江町1番地140

TEL: 0994-32-5211 FAX: 0994-32-5722 (総務課)

0994-32-5230 (医事課)

【E-mail】 tarumizuhp@tarumizumh.jp

【URL】 <http://tarumizumh.jp>